

東北大学附属図書館報

木這子

BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

—木這子（きぼこ）とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子（こけしぼうこ）—

目 次

◦ 図書館の機能充実に向けて	1	◦ 平成元年度文献複写実績	18
◦ 医学分館の蔵書印に見る医学部の歴史	5	◦ 附属図書館の概況	19
◦ 資料としての“CD-ROM”について	11	◦ 参考図書購入報告（平成元年度）	22
◦ 会 議	15	◦ 平成2年度東北大学附属図書館職員総合研修会	27
◦ 第45回東北地区大学図書館協議会総会	15	◦ 東北大学附属図書館本館利用規則・同細則の 一部改正について	27
◦ 第31回東北地区医学図書館協議会総会	16	◦ 人事異動	28
◦ 平成2年度情報検索担当者会議	17	◦ 編集後記	28
◦ 記念資料室だより	17		

図書館の機能充実に向けて

事務部長 矢 野 光 雄

1. はじめに

学術研究の進展に伴い、学術情報は量的に増大し質的に多様化した。その結果、利用者が的確な学術情報を迅速に入手することが容易ではなくなっている。これを図書館側からみると、情報の量的増大は収集機能に、質的多様化は提供機能に大きな影響を及ぼす結果となっている。本学の図書館においても然りである。このことを、われわれ図書館関係者はどう捉えるべきであろうか。やはり図書館の大転換期と認識すべきではなかろうか。

そのようなことを念頭におきながら、本学の図書館の問題点と課題について、考えてみたいと思う。

2. 整備充実の実施経過について

問題点と課題をより明らかにする一つの方法として、次の4点を想定した。

①現時点を起点として、過去10数年を振り返ってみる、②その際、いくつかの視点を定めて観測する、③実施事項を数年度単位にまとめ、一覧性のあるものに表現してみる、そして、④何がなされ、何がなされていないかを確かめ、問題点と今後の課題を探る、以上である。

主な資料として附属図書館商議会議事要録、東北大学附属図書館月報「図書館通信」、東北大学附属

図書館報「木這子」、東北大学五十年史等を用いた。頁3～4の一覧表はそのようにして作成されたものである。なお、この一覧表は、平成2年12月19日開催の附属図書館商議会の協議事項の資料として配布され、審議の上承認を得たものであるが、ここにその概要を紹介し説明して、皆さんのご理解とご協力をお願いすることとしたい。

3. 視点について

長い歴史と伝統を有する大学の図書館である。問題点を掌握することが容易でないことは承知の上で、敢てレビューを試みた。

表の区分欄は縦軸に視点を、横軸に実施経過を記載することとし、実施した事項を5年毎に区切って簡潔に示した。視点として、組織・機構を初めとし、図書館機能、施設・設備、要員養成、事業、規程及び対外協力の7点とし、図書館機能については、大学図書館の4つの基本的機能に、今日的なテーマとなっている電子図書館機能を加えて整理した。

まず組織・機構についてであるが、昭和60年度以後は分館が地理的あるいは部局における情報サービス機関としてではなく、東北大学附属図書館としての主題別専門分館と位置づけられたことから、部局を示す言葉が分館の名称の中から消えている。また、分館の1つを事務長制に、2分館には掛を増設して事務組織の充実を図り、本館には図書館専門員を新たに配置している。昭和61～平成2年度には、大学図書館を取り巻く環境条件の変化に対応すべく、課の名称の変更を初め、掛の改組及び名称の変更を行っている。

一方、図書館機能の充実経緯をみると、研究機能面では大型コレクション等図書資料の整備、文献複写サービス及び相互利用制度を介した学術資料の共同利用の強化があげられる。学習機能としては、複写サービスの改善と外国人留学生図書の整備がなされているが、保存図書館機能という視点からみると、僅かに貴重図書利用制限を行った程度で、資料の劣化あるいは利用による損耗対策は殆んどなされていない。総合機能及び電子図書館機能、その他、施設・設備、要員養成等については一覧表に詳しいのでご参照願いたい。紙数の都合上ここでは説明を省きたい。

4. 今後の課題について

図書館にとって何が問題であるのか、その問題をどうすればよいのか、と言うことは最も大切なことである。一覧表の右端欄に掲げた事項は、本学図書館における今後の課題である。そのどれ一つとってみても容易に解決できるものではないが、関係者のご協力を得て図書館機能の一層の充実を図らねばならない。

「大学院図書館は、大学の研究・教育に不可欠な図書館資料を効率的に収集・組織・保管し、利用者の研究・教育・学習等のための利用要求に対し、これを効果的に提供することを主要な機能とする。」

(大学図書館基準(昭57.5.18))この機能を充分発揮させるため、本学の図書館を構成している要素について考えてみる必要があるのではなかろうか。言いかえれば、本学の図書館とはどこまでを言うのか、本館、分館、部局図書室各間の機能はどのようになっているのか、その辺りを明確にし、今後

整備充実の実施経過と今後の課題

附 属 図 書 館

区 分		実 施 経 過 () は実施年度				今 後 の 課 題
		～昭和50年度	昭和51年度～昭和55年度	昭和56年度～昭和60年度	昭和61年度～平成2年度	平成3年度～
組 織 ・ 機 構		○ 附属図書館設置 (明44) ○ 医科分館設置 (大4), 改称: 医学分館 (昭47) ○ 図書館長・司書官設置 (大5) ○ 事務部事務長制 (昭24) ○ 商議会設置 (昭29) ○ 調査研究室設置 (昭35) ○ 四学部図書委員会設置 (昭35) ○ 部課制 2課7掛 (昭40) ○ 教養分館を統合 本館2課11掛 (昭47) ○ 農学部分館設置 (昭49) ○ 本館 3課11掛 (昭49)	○ 医学分館事務長制 3掛 (昭51) ○ 図書選定委員会(本館)設置(昭51) ○ 農学部分館→農学分館 (昭53) ○ 工学分館設置 (昭53)	○ 北青葉山分館設置 (昭57) ○ 工学分館 2掛 (昭58) ○ 図書館専門員(整理課) (昭58) ○ 北青葉山分館 2掛 (昭60)	○ 図書館専門員総務課配置換(昭62) ○ 掛改組企画渉外掛・学術情報掛(昭62) ○ 掛改組 (平2) 学術情報掛 → システム管理掛 和漢書目録掛 → 和漢書目録情報掛 洋書目録掛 → 洋書目録情報掛 閲覧掛 → 閲覧第一掛 書庫掛廃止, 閲覧第二掛新設 ○ 貴重図書選定委員会設置(昭62) ○ 図書館業務電算化委員会設置(昭62) ○ 課名改称 (昭63) 整理課→情報管理課 閲覧課→情報サービス課 ○ 図書館専門員(情報管理課) (平2)	○ 商議会内部組織としての専門委員会設置 ○ 本学図書館システムの構成要素としての本・分館及び部図書室の関係
	研 究	○ 文献複写サービス開始 (昭35) ○ 特別図書充実 (毎年) 以後同じ ○ コンテンツサービス開始 (昭42) ○ 経済統計資料コーナー設置 (昭48) ○ 個人文庫整備 (昭50) 1点	○ 自然科学系外国雑誌共同利用 (昭51) ○ 個人文庫整備 (昭52,55) 3点 ○ 情報検索サービス開始(昭53～54) ○ 大型コレクション整備(昭53～55) ○ 参考図書(二次資料) 充実(昭54)	○ 大型コレクション整備 (昭56～60) ○ 個人文庫整備(昭57,59,60) 6点	○ 大型コレクション整備(昭61～平成元) ○ 国立大学図書館相互利用サービスの開始 (昭61) ○ 個人文庫整備 (昭62, 平成元) 4点 ○ 学術図書充実 (昭62) ○ 大学共同利用機関等との相互利用サービス開始 (平2)	○ 共同利用資料の充実 ○ 複写サービスの改善 (私費)
	書 学 習	○ 指定図書4ヶ年計画 (昭40～43) 以後毎年更新 ○ 文献複写サービス開始 (昭42) ○ 既定予算による図書館備付図書の充実 以後各年度同じ			○ 外国人留学生用図書整備 (昭63) ○ 複写サービスの改善 (平2)	○ セルフサービスの実現 ・ 利用指導の強化 ・ 利用案内情報のシステム化 ○ 学生用図書の充実
	機 保 存	○ 国宝指定 (昭27) 特別扱い ○ 別置本指定 (昭35) 特別扱い			○ 貴重書利用制限 (昭62)	○ 資料の劣化, 損耗対策 ・ マイクロ化 ・ 資料の電子化 ○ バックナンバーの保存
能 総 合	○ 広報誌「図書館通信」発行 (No.1～93) (昭39～46) ○ 東北大学附属図書館総合研修会 (毎年開催) ○ 全学総合カード目録整備	○ 広報誌「木這子」発行開始 No.1 (昭51～) ○ 総合研修会 (毎年)	○ 図書館情報システム基本構想策定 (昭58～60) ○ 総合研修会 (毎年)	○ 本館・新館利用計画の策定(昭61) ○ 目録システム講習会(地域講習会) (昭61) ○ 総合研修会 (毎年) ○ 学内図書館(室)間文献複写サービスの実施 (平成元)	○ 業務処理の自動化の推進 ○ 学内図書館間相互貸借システムの改善 ○ 図書館広報活動の改善 ○ 図書館の公開 ○ 図書館間相互協力 ○ 著作権	

区 分	実 施 経 過 () は実施年度				今 後 の 課 題
	～昭和50年度	昭和51年度～昭和55年度	昭和56年度～昭和60年度	昭和61年度～平成2年度	平成3年度～
電 子				○ 学術情報センターと接続 (昭61) ○ 図書館情報処理システム全面稼働 (昭62) ○ TAINSと接続 (平成元) ○ オンライン蔵書検索サービス開始 (昭62) ○ 学生用図書目録データ選及入力3ヶ年計画 (平成元～3) ○ TAINSを介した学内図書館間文献複写サービス開始 (平成元)	○ 次期システムへの更新 ○ CD-ROMによるサービス ○ 所蔵目録データベース構築の推進
施設・設備	○ 本館書庫・閲覧室竣工(片平)(大13～14) ○ 医科分館書庫・閲覧室竣工(大14～昭2) ○ 医学部分館増築 (昭35) ○ 本館増築 (昭39) ○ 複写機設置 (昭42) ○ 新宮本館 (川内) 竣工 (昭47) ○ マイクロリーダー・プリンター(昭49)	○ 農学分館竣工 (昭54) ○ 工学分館竣工 (昭55)	○ 医学分館竣工 (全面改築) (昭59) ○ 北青葉山分館竣工 (昭60) (時間外入退館システムの導入: 研究者用)	○ 専用電算機ACOS610.10設置(昭61) ○ FAX設置 (昭63) ○ マイクロリーダー・プリンターの増設 (平成元) ○ 本館増築 (2号館) 竣工 (平2) ○ 利用者用複写機設置 (2台) (平2)	○ 分館収蔵スペースの確保 ○ 端末の増設 ○ 自動入退館システムの導入 (本館)
要 員 養 成 (学外研修)	○ 図書館職員講習会受講 ○ 大学図書館職員長期研修受講 ○ 著作権講習会			○ NC目録システム講習会(昭62～)34名 ○ プログラミング講習会(昭62～)9名 ○ NCデータベース実務者研修(昭61～)4名 ○ 大学図書館シンポジウム (昭62～)5名	○ 情報処理 ○ 語学力 ○ 古文書の知識
事 業	○ 東北大学所蔵和漢書古典分類目録の編集 (昭38～48) ○ 同 目録 第1分冊発行 (昭48) ○ " 第2分冊発行 (昭49) ○ " 第3分冊発行 (昭50) ○ 特殊文庫目録シリーズ No.1 (昭46) ○ " No.2 (昭48) ○ 図書館学研究報告 No.1 (昭43～) ○ 所蔵資料の展覧	○ 左記目録 第4分冊 (昭52) ○ " 第5分冊 (昭53) ○ " 第6分冊 (昭54)	○ 左記目録 第7分冊 (昭56) ○ 特殊文庫目録シリーズ No.3 (昭56)		○ 所蔵資料の展覧 ○ 特殊文庫目録シリーズの刊行
規 程 等	○ 東北大学附属図書館規程 (昭29) ○ " 商議会議程 (昭29) ○ " 調査研究室設置規程(昭40) ○ " 文献複写規程 (昭42) ○ 文・教・法・経四学部図書委員会内規 (昭35) ○ 医学分館利用規則 (昭39) 改正 (昭47)	○ 工学分館利用規則 (昭54) ○ 農学分館利用規則 (昭55)	○ 医学分館利用規則一部改正 (昭57) ○ 工学分館利用規則一部改正 (昭59) ○ 北青葉山分館利用規則 (昭60)	○ 本館利用規則全部改正 (昭62) ○ " 一部改正 (平2) ○ 工学分館利用規則一部改正 (平2) ○ 農学分館利用規則一部改正 (平2) ○ 文献複写規程一部改正 (平2)	○ 図書館規程の整備
対 外 協 力	○ 国連寄託図書館に指定 (昭40) ○ OECD寄託図書館に指定 (昭45)	○ 医学・生物学系外国雑誌センターに指定: 医学分館 (昭53)	○ EC資料センターに指定 (昭58)	○ 地区センター館に指定 (昭61)	

の図書館サービス体制を確立して行きたい。それには、図書館商議会を初め、実務者レベル等関係者による議論検討がなされなければならないだろう。そして、本学の伝統とされている研究第一主義により適った図書館へと変身させて行く必要がある。そのようなプロセスのなかで各種の課題は検討され、対策が講じられるべきであろう。

すでに商議会においては、その内部組織として、問題の主題に応じた委員会を設け、そこで当核問題を検討するようにしてはとのことで、委員会の設置方についてご審議願っているところである。また、図書館事務部内においても、課長、掛長を中心としたテーマごとのプロジェクトチームをつくり、当面の課題に取り組み実行に移している。図書・雑誌の区分の問題は年度内に解決をみ、逐次刊行物の受入業務の改善については、作業の迅速的確化を図るため、電子的処理技術の導入を試みている。これは2ヶ年計画で進行中である。

本学にはすでにキャンパス LAN が走り、図書館の T-lines もその恩恵を受けつつ、業務は快調に進んでいる。しかし、われわれは、現状に満足することなく、更に図書館機能の充実向上を目指してよりよい図書館サービスに努めたいと思う次第である。

医学分館の蔵書印に見る医学部の歴史

医学分館 米 澤 彰

医学分館には、現在集密書庫の一部に東北帝国大学時代の蔵書が保管されている。

手にとって標題紙をめくると、そこには旧帝大時代だけではなく、もっと以前の例えば当時の清（シン）国から留学生として周樹人（魯迅）が学んだ「仙台医学専門学校」の時期とか、医学部附属病院の源流である「宮城病院」で使用されたものなど、その時々様々な字形を刻した蔵書印やゴム印、蔵書票の図書と対面することができる。

ここでは、それらの中から確かめることができたいくつかの蔵書印などを時代別に紹介し、県営「宮城病院」から現在の東北大学医学部に至る変遷を辿ってみることとする。

なお、固有の名称は本来、醫學會などのように記すべきであるが全て常用漢字を使用した。

宮城病院（明治12年～

大学病院の源流は、東北大学医学部附属病院長楨哲夫編「開設50周年記念」昭和40年、によれば、

仙台藩医学校の施薬所（文化14年、1817）に始まる。しかしこの頃に蔵書印があったかどうかは定かでない。蔵書印として残されていたのは私立「共立社病院」が明治12年（1897年）県に寄付移管され、「宮城病院」となってからである。

図1は明治13年、宮城病院雑誌第1号の標題紙にみられたもの。図2は同誌第14号からで「宮城病院之印」枠付である。

大正2年4月、勅令により東北帝国大学医学専門部附属医院となったが、宮城病院の名称はそのまま使用されていた。図3はその証拠ともいえる受入月日の入ったスタンプと宮城病院図書の印である。

甲種「宮城医学校」（明治16年～

明治16年（1883年）、文部省から認可、同年5月開講した。卒業生は無試験で内・外科開業の免許を取得できたという。ちなみに長陵同窓会から3年に1回、現在も刊行が続けられている「東北

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

資料としての“CD-ROM”について

ここ2, 3年の間に、著作物を従来の「本」の形態以外で出版するケースが急激に増加している。その一例が、CD-ROMであり、オンラインによる全文データベースである。ここでは、出版物としてのCD-ROMの現状について、簡単に紹介する。なお、この稿は、11月15, 16日に横浜市で開催された「第4回国立大学図書館協議会シンポジウム」の内容をもとにしている。

1. CD-ROMとは？

CD-ROMは、音楽用に開発されたコンパクト・ディスクが600MB（600メガバイト＝6億バイト）もの記憶容量を持つことから、コンピュータ用のデータ記憶媒体として活用されるようになったものである。基本的には、音楽用のCDと構造面で異なるものではない。CD-ROMのメディアとしての長所は次のようになる。

①容量が大きい

→ 情報のコンテナとして、大規模なデータやソフトウェアの配布に適している。

②同一内容の大量複製が安価にできる

→ 100枚で100万円程度、量が多ければさらに価格は下がる。

③READ-ONLY

→ 特に出版者側にとって、知的所有権侵害への対抗措置として魅力的である。

④読み取りが光学的で非接触方式である

→ ディスクの保存性に優れる。

2. CD-ROMによる資料の提供

現在、世界では600～700タイトルの資料がCD-ROMによって出版されていると言われる。これらの資料の内容は、専門情報に限らず、百科辞典、電話番号簿、地図、カタログ、マニュアル類など一般的な幅広い分野に及んでいる。このうち、とりわけ学術研究に関連があるものとして、これまでオンラインによってサービスされてきたデータベース類も数多く出版されている。

データベース類をCD-ROMによって利用する場合、オンライン検索に比べて、次のようなメ

リットが期待できる。

①検索コスト

CD-ROMはどれだけ使おうと料金は一定である（注：1つの媒体に複数端末からアクセスするケースについては後述）。よって、使用量が多ければ多いほどコスト的なメリットは高くなる。特に、医学・薬学系のデータベースのように、オンライン検索に高額のコストを要してきたような場合、大きな効果が期待される。

なお、CD-ROMは一般的な買取り方式ではなく、一定期間の使用契約方式がとられる場合が多い。このようなケースでは、期間が満了したら更新の手続きをとるか、CDを返却することが必要となることがある。

②ユーザ指向型インターフェイス

CD-ROMの検索ソフトは、通常パーソナルコンピュータ上で動作するように作られており、オンライン検索とは異なって難しいコマンドを不要としたり、操作のガイド機能・ヘルプ機能の面で配慮が試みられており、操作法の取得は比較的容易である。

③時間的な制約が少ない

オンライン検索のように、海外のホストコンピュータの運用時間などを気にすることなく使用することができる。

一方、データベース以外の資料においても、OED（Oxford English Dictionary）のように用例中の語からも検索ができるなど、従来の冊子体ではできない機能が付加されている例が多く、有用と思われる。

なお、ダウンロードについては、使用契約とい

う側面を反映してか特に制限を賦しているケースはあまりないようである。

3. 利用上の問題点

さて、以上のように画期的と見える CD-ROM であるが、現状で問題がないわけでもない。現状の問題点を列挙すると次のようになる。なお、このような問題は、内容を把握して使用するべきこと、或は今後解決されるべき課題と考えるべきであろう。

①タイムラグ

更新頻度が少なかったり、郵送期間によってタイムラグが生じる。特に、データベースのように最新情報が重要な場合には問題となる。ユーザ側が状況を踏まえてオンラインと併用するなどが必要である。また、長い期間にわたる検索の場合にもオンラインの方が適している。

②ソフトごとに、画面、検索手法が異なる

インターフェイスで優れている反面、ソフトごとに使用方法がかなり異なるため、その都度学ばなければならないことが多い。

③使用環境が不明

現在の最も大きな問題であるが、ソフトによって使用できるパソコン・CD-ROM ドライバの組合せが統一されていない。物理フォーマットの国際標準規格は早くから規定されたが、論理フォーマットについてはハイシェラフォーマット（HSG フォーマット）により標準化に向けての方向付けがなされているものの、未だ製品仕様の中では混乱が続いている。結局、現状では、IBM-PC 系と NEC9801 系の 2 つの製品群があるが、両者に関して基本的な互換性はなく、PC9801 においては IBM 系の CD を利用できず、またその逆も同様である。加えて、CD-ROM を読み込む装置（ドライバ）についてもハードの機種や使用環境またはソフトの種類によって使えたり使えなかったりする（場合によっては MS-DOS のメモリ制限の問題にも関連し

てくる）。よって、利用したい CD-ROM に合わせてパソコンやドライバを選択しなければならないのが現状である。

4. CD-ROM 利用の現状と今後

* 他大学における利用の現状

国立大学図書館だけを見た場合でも、既に 97 大学のうち 54 大学でなんらかの形で CD-ROM が導入されている。また、大学によっては、大学全体で 10 台前後の CD-ROM 用パソコンを設置している図書館もある。これをソフト別にみれば、51 種類 237 点の資料が利用されていることになる。

* CD サーバー

CD-ROM の検索は、スタンドアロン（パソコンの単体のみによる）方式による利用が一般的であるが、1 つの媒体に複数の利用者が同時にアクセスできる方式もアメリカではかなり普及しているようで、日本でも販売が行われている。また、ソフト側の価格設定もマルチユーザー価格を別設定する例が多くなっている。

CD サーバーの特徴は、1 台のサーバーで最高 14 枚の CD-ROM がマウントでき、しかも 1 枚の CD-ROM に複数の利用者が同時に（タイムシェアリング的に）アクセスできることにある。接続は、小規模な LAN により行われる（販売業者は RAN=Room Area Network といっている、ネットワーク OS として NOVELL 社の Advanced Netware を使用）。よって、利用者数が多い場合にはかなり有効である。但し、CD サーバーは高価格（約 500 万円）であることから、複数のソフトを購入する方法とどちらが良いかは条件によって異なると思われる。なお、検索ソフトを各々のクライアント側に持たなければならないという仕様上の問題があり、前述のソフトの互換性という面と絡んで問題となる。

* CD サーバーのネットワーク利用

CD サーバーから発展したかたちで、既に一部の利用者の方から要求をいただいているような

TAINS 上での CD-ROM によるサービスを想定することも可能である。しかし、現状では次のような問題がある。

①検索ソフトがネットワーク対応になっていない。

このため、端末側に専用の検索ソフトが必要となる。また、データベース系列の主な CD-ROM は、IBM-PC 系であることから、端末としては IBM-PC、またはその互換機に限定せざるを得ない。

②CD サーバーがサーバーとして機能する

Netware では「IPX」という自社プロトコルが採用されており、単に TAINS に接続しただけでは特定の専用端末に限定してのサービスしか期待できない。

③現在のマルチユーザー価格の設定は、通常は10人以内を想定したもので、大学全体の不特定ユーザーの場合は特殊な契約を締結しなければならないケースもでてくるのが予想される。

④CD-ROM ドライブ装置の価格は、年々低下しており、現在では6万円台で、また6枚用のチェンジャー仕様のもので20万円程度で購入することができる。装置や CD-ROM が個人ユーザーを指向し、より廉価になっていけば、ネットワークによる利用という事が無意味になる可能性もある。

以上のことから、現状では導入するだけのメリットがあるか、スタンドアロンによる利用を進めていき十分に利用者の要求調査も行った上で結論を出すべきと考えている。

注) 上記①、②を解決する方法として、LAN と Netware の中間に gateway machine を置き、サーバーとしてプロトコル変換と検索ソフトの実行を行い、端末側では画面入出力のみ行うという方式を開発中の業者もある。価格設定によっては、期待が持てる。

* 東北大学図書館におけるサービスと課題
本学においても、既に本館では利用を開始して

おり (CD-HIASK, 学術雑誌総合目録), ソフトを順次整備していく予定である。また、医学分館においても平成3年1月に MEDLINE のサービスを開始することとなった。

初めにも触れたが、CD-ROM による出版が急激に増加している背景には、出版者にとって不法コピー等による発行部数の伸び悩みから来る収益面での悪化が深刻化している状況がある。このため、「ADONIS」と呼ばれる、欧米の大手出版社が発行する生医学、医学関連の200誌以上を、CD-ROM によって世界の主要サービス機関に配布し、ユーザーからの注文に応じて論文を有料で全文出力して提供するという計画の指向も行われている。また、国内では、ハンドヘルドサイズで8cm 版 CD-ROM を使用できる装置が市販され数多くのソフトも使えるようになってきている。

これらの事柄に共通する点は、出版社がユーザーに対して直に資料(情報)を提供する傾向であり、大きな視点で見た場合、図書館における CD-ROM サービスは過渡的な形態に過ぎないと捉えるのが妥当と思える。しかし、データベースや参考資料が身近になるにしたがって、効率的にかつ使いやすい形でそれらを提供できるよう整備していくことがこれからの図書館の課題の一つとなったことは間違いがない。

ともあれ、CD-ROM というメディアはユーザー個人が使用できるという点で、これまでのデータベース検索等とは一線を画すものである。図書館におけるサービスに、遠慮なくご意見をいただきたい。なお、紙数等の関係から一部しか出版物の内容等を紹介することができなかったが、質問等をおよせいただければ幸いである。

(佐藤 義則: 総務課システム管理掛長,
内線2408)

CD-ROMによって検索できる主な資料

分野	資料名	収録対象	更新	内容等
社会科学 全般	○CIA World Factbook ○Social Science Citation Index ○Social Science Index	世界249カ国 1981- 1983. 4-	年1回 年4回 年4回	買取り, 年次データの全文 社会科学分野の文献及び引用情報 英文雑誌300誌の文献情報
法律	○リーガルベース ○判例マスター ○模範六法 ○Justis CD-ROM	最高裁判所発足後 1948-90. 4 1990年版 1952-	年2回 年2回 年1回 年2回	全審級, 全分野にわたる判例情報 民事判例47000件 同名印刷体の CD-ROM 版 EEC の公式法律情報データベース
経済	○商業地域統計情報 ○有価証券報告書財務諸表	1989. 12-90. 10月期	年1回	約2000社, SYLK 形式で提供
教育	○ERIC ○学校基本統計データ 1955-1989 ○A-V Online	1966- 35万項目	年4回 年1回	雑誌, レポートに関する文献情報 教育情報 AV の DB
医学	○Biological Abstracts on CD ○Cancer-CD ○Excerpta Medica Library Service on CD ○Medline ○最新医学大辞典 ○Medicats ○Nurging allied health	1990- 1983- 1984-89 1966- 過去12回分(10年)	年4回 年4回 買取り 月1回 年1回	同名刊行物の CD-ROM 版 EMBASE, Cancerlit の関連情報 抽出 生医学関連文献情報, 抄録付 同名の CD-ROM 版 医師国家試験問題, 医学大辞典等
心理学	○PSYCLIT			
理工学	○Compendex plus ○GeoRef ○Mcgraw-hill CD-ROM science & tech. refer. ○NTIS ○SCI (Science Citation Index) ○Physician's desk reference ○Time table of science and inovation ○Registry of mass spectra data	1985- 150万件(北米1785-, 他1933-) 事典7300項目, 辞書98500語 1983- 約50万件 1986-	年4回 年4回 隔年 年4回 年4回	エンジニアリング, 工学関連文献情報 地質学等関連文献情報 科学技術百科・科学技術用語 主として自然科学分野 科学技術分野の文献及び引用情報
農学	○AGRICOLA ○Compact Cambridge ASFA	1970- 1982- 約28万件	年4回 年4回	農学, 農業全般その他 水生環境全般の文献情報
コンピュータ	○Computer library ○CD-コンピュータ用語大辞典	最新12ヶ月, 約47000件	月1回	米国のコンピュータ関連の雑誌新聞記事
化学	○Kirk-Othmer encyclopedia of chem. tech.	印刷体全25巻(第3版)	/	化学分野のレファレンス情報
数学	○MathSci Disc.	1985-	年2回	Math. reviews, CMP による文献情報
書誌	○Bibliographie nationale française ○Books in print plus ○German books in print ○Dissertation abstracts ○Ulrich's Plus ○学術雑誌総合目録 ○J-BISC	約100万件 約200万件(1989年時) 1969-	隔月 随時 年4回	米国の既刊, 新刊本情報 国内700機関の雑誌所蔵情報 国内の書誌情報
辞書・事典	○CD-WORD ○Electronic Encyclopedeia (Grolier) ○OED (Oxford English Dictionary) ○現代用語の基礎知識 CD-ROM 版 ○電子広辞苑	辞書13種類約500万語 約3万項目 約25万語 1989年版, 約45000語 第3版	/ / / 年1回 買取り	8カ国語の相互関連検索 Academic American Ency.の全文 同名辞書の CD-ROM 版 同名印刷体の CD-ROM 版 印刷体+色彩・音声データ
その他	○Art Index ○Biography Index ○Year's books ○CD-BOOK ○バイブルズ人物情報 ○CD-HIASK(朝日新聞記事データベース)	1984. 9- 12万件 1984. 7- 7万件 1986. 2-89, 12 1985, 86, 87, 88, 89	年4回 年4回 年1回 買取り	米国内の芸術, 考古学関連文献 DB 伝記・人物情報 国内の新刊図書情報 新聞記事の全文(スポーツ, 家庭欄以外)

会 議

12.19 第4回附属図書館商議会

○協議事項

- (1) 図書館情報処理システム次期システム検討委員会報告について
- (2) 専門委員会設置要項の制定について
- (3) 平成4年度概算要求事項について
- (4) 附属図書館の整備充実の実施経過及び今後の課題について
- (5) その他

○報告事項

- (1) 国立大学図書館と相互利用の大学共同利用機関等について
- (2) 国立大学図書館協議会理事会について

- (3) 国公立大学図書館協力委員会について
- (4) 国立国会図書館長と大学図書館長の懇談会について
- (5) 国立七大学図書館協議会について
- (6) 文献複写に係る著作権問題特別委員会報告について
- (7) 東北地区大学図書館協議会総会について
- (8) 平成3年度外国雑誌購入について
- (9) 資料区分(図書・雑誌)作業の実施について
- (10) 各分館の概況について
- (11) その他

第45回東北地区大学図書館協議会総会

平成2年9月20日～21日、弘前大学の担当により青森県大鰐温泉おおわに山荘別館を会場に、加盟館52館から38館74名の参加を得て開催された。当番館弘前大学徳田事務部長の司会により開会、弘前大学児玉館長の開会の挨拶、東野学長の歓迎の挨拶、常任幹事館勾坂東北大学館長の挨拶があり、議事に入った。主な協議事項は以下のとおり

1. 協議事項

① 学術奨励規程・論文審査取扱要項の改正

図書館活動の活性化のためには、若手館員が業務研究に意欲的に取組み、その成果を受賞候補論文としてより推薦し易くすることが必要であるとして、前総会において幹事館会議に本規程等の改正案の検討を付託されていたが、今総会においてその改正案が承認された。

- ② 大学図書館と公共図書館との協力について
地区内各県における大学図書館と公共図書館との相互協力協定の実例が報告されるとともに協力未定結の県においてもその胎動が始まっていることが報告され、情報交換と検討とを更に進めることとなった。

また、最近各企業研究機関の地方への進出が多く、文献情報の入手について大学図書館への依存度の増加が予想されるところから、近い将来何らかのガイドラインの設定が必要になるのではないか、との発言があり注目された。

2 総会記念講演

総会をより魅力あるものとするため、今総会から記念講演が企画され、高松亮明弘前大学名誉教授(中国文学)の「書林随想」と題した講

演があり、参会者一同多大の感銘を受けた。

3. 表彰

① 学術奨励賞

平成2年度の学術奨励賞は以下の2名に授与された。

佐藤義則氏（東北大学）「T-LINES：東北大学附属図書館の蔵書検索システム」

藤倉晶子氏（福島県立医大）「病院図書室ネットワークと医学図書館—特に雑誌目次サービス」

学術奨励賞の授賞は、「学術奨励規程」が昭和40年に制定されて以来初めてのことであり、これを契機に若手館員の研究意欲の高ま

りが期待される。

② 永年勤続表彰

栗野ゆき系氏（元東北大学）

千葉 直子氏（元岩手大学）

4. その他

① 本協議会活動をより活性化するためには、財政基盤の強化が不可欠であるとして会費値上げの提案があり、次期総会までに幹事館会議で検討することになった。

② 平成3年度第46回総会は、宮城地区が当番・石巻専修大学が会場館を担当することとなり、同大学渡辺館長の挨拶があった。

第31回東北地区医学図書館協議会総会

標記会議が平成2年10月25日（木）、26（金）の両日、当番館福島県立医科大学附属図書館を会場として加盟館7大学から館長（分館長）及び主任司書17名が参加して開催された。

会議は、当番館の茂田館長から挨拶があり、続いて茂田館長が議長となり、議事に入った。報告事項、承合事項、協議事項等について紹介する。

報告事項：①各館の近況報告、②日本医学図書館協会理事会報告、③BLDC（British Library Document Supply Center）複写報告。

承合事項：①文献調査指導に関するアンケート。

協議事項：①機関誌「医学図書館」編集協力委

員の交替について、②協会出版物「現行医学雑誌所在目録」の地区編集協力について、③協会出版物「年次統計」の次期編集担当館について、④平成2年度情報検索担当者会議について、⑤第62回日本医学図書館協会総会の地区提出議題について、⑥次期当番館について協議された。

特に各館の近況では、図書館業務の電算化・機器の更新、CD-ROMの設置利用状況、時間外開館の状況等についての活発な意見交換があり、次期当番館を山形大学附属図書館医学部分館に決め2日間にわたる会議を盛会裡に終了した。

（医学分館）

●訂正についてお願い

木這子 Vol. 15 No. 1-2 (1990) P. 20-

右欄 10. 25～26 第31回東北地区医学図書館協議会（千葉 県立医科大学附属図書館）を（福島県立医科大学附属図書館）に訂正のこと。

平成2年度情報検索担当者会議

東北地区医学図書館協議会の主催、JICST 東北支所の後援による標記会議が、本学医学分館に於て開催された。この会議は本協議会加盟7館の、JOIS等、オンラインによる文献検索の担当者が一堂に会し、講師による医学系のデータベースの解説講演、各館の検索事例の報告、質疑、意見交換などを行うものである。会議の日程及び概要は次の通りである。

期日：平成2年11月29日（木）～11月30日（金）

当番館及び会場：東北大学附属図書館医学分館
AV室

第1日目：12月3日（木）、開会：13：30

挨拶：桜井医学分館長

関係者の紹介：阿部医学分館事務長

JICST 東北支所長挨拶 宮田 二郎氏

参加者の自己紹介、自館での担当業務など

講演：JOIS IIIの医学系データベースの検索について—特に MEDLINE, JMEDICINE について—

講師：JICST 業務部調査検索部門情報員

阿部 錦司氏

—休憩—

各館での検索事例についての問題点についての質疑、及び、これに対する JICST 東北所長、阿部錦司講師の回答と解説。各館相互の意見交換。

館内見学

第2日目：11月30日（金）

9：30 検索実習 医学分館情報検索室

11：30 散会

尚、今回も病院図書館からの参加者もあった。

— 記念資料室だより —

ヨーロッパからの絵葉書—東北大学創立のころ—

本室常設展示となっている資料のなかに、東北帝国大学開講直前にヨーロッパへ留学された、本多光太郎先生（本学第六代総長。金属材料研究所初代所長）・日下部四郎太先生（本学第三代理学部長）が、母校東京帝国大学理科大学の田中館愛橘先生にあてた4枚の絵葉書があります。今回は、この4枚の絵葉書から東北大学創立のころをかいま見たいと思います。

東北帝国大学の創設は、明治40（1907）年に帝国議会で承認されました。帝国大学は、総合大学でなくてはならなかったため東北帝国大学は、札幌農学校を農科大学として、そして仙台に理科大学を新設することになりました。当時、政府からの援助は決して多くはなく、結局、敷地も片平の旧制二高の運動場の一部をいただく形となり、開講も明治44（1911）年の秋までずれこみます。

教官の選定は、創立委員である東京帝国大学理科大学の教授の方々に委嘱されました。この絵葉書を受け取られた田中館先生もそのひとりです。そして、東京帝国大学理科大学出身の優秀な若手研究者本多光太郎先生や日下部四郎太先生ら、後

に本学を訪れたアインシュタイン博士が「脅威的な」教授陣と称した方々が選ばれ、開講までの数年間、彼らはヨーロッパに留学していました。4枚の絵葉書は、その留学中に書かれたものです。

では4枚の絵葉書を見ていきましょう。

1枚は明治41（1908）年、本多先生がドイツから出されたもので、旧友桑木氏・田丸氏と再会し、ビスマルクゾインのあたりを散歩したことが記されています。本多先生は、留学の前半はゲッチンゲンで、後半はベルリンで、極めて精力的な研究活動を行ったことが知られていますが、ひとときの休息を楽しんだというところでしょうか。なお、本多先生が留学中に書かれた絵葉書は、このほかに数枚、金研の本多記念室にあります。

他の3枚は日下部先生が出されたものです。日下部先生は、留学中、かなり多くの旅行をなさったようですが、この3枚はいずれもパリから出されています。このうち2枚は明治42（1909）年12月に出されたもののようで、自分の近況としてパリに転学してきたこと、寺尾先生（東京帝国大学理科大学の天文学の先生か）と久しぶりに会った

ことなどが1枚に、もう1枚のには、新年のあいさつとともに、飛行機の発明者が雨後の筍のように現れている当時のヨーロッパの状況を伝えています、残る1枚は、明治43（1910）年末、ヨーロッパを発つ直前のものです。そこには新年のあいさつとともに明日渡米すること（アメリカ経由で帰国）が記されています。日下部先生の出された絵葉書で特徴的なことは、3枚とも飛行機の図柄の絵葉書を使っていることです。明治43（1910）年の秋には、田中館先生が陸軍の嘱託でヨーロッパ各国の飛行機の視察を行なっているようですが、彼ら当時一級の物理学者の、飛行機へのなみなみならぬ関心の表れと言えましょう。

ともあれ、この4枚の絵葉書は東北大学の基礎を築かれた先生方の、ヨーロッパ留学中の一コマを伝えてくれる貴重なものだといえます。本資料は田中館先生のご家族から、本学名誉教授加藤愛雄先生へ、そして本室へと寄贈されたものです。末筆ながら、これら方々に感謝の表したいと思います。

参考文献

- 『東北大学五十年史』（東北大学 1963）
 石川梯次郎『本多光太郎傳』（日刊工業新聞社 1964）
 津金仙太郎『日下部四郎太一信仰物理学者一』（中央書院 1973）
 斎藤考次『東北大学物語』（自費出版 1976）

平成元年度文献複写実績（国立大学間）

国立大学図書館間で取扱われた文献複写の本学に於ける平成元年度の実績は下記のとおりです。

図 書 館 名	支 払 区 分	受 付		依 頼	
		件 数	金 額（円）	件 数	金 額（円）
附 属 図 書 館	校 費	1,145	1,107,831	293	369,603
	私 費	474	417,921	407	462,352
	合 計	1,619	1,525,752	700	831,955
医 学 分 館	校 費	2,778	1,365,444	296	141,470
	私 費	1,185	542,727	250	122,642
	合 計	3,963	1,908,171	546	264,112
北 青 葉 山 分 館	校 費	1,029	726,746	209	116,682
	私 費	147	115,295	115	58,222
	合 計	1,176	842,041	324	174,904
工 学 分 館	校 費	996	437,783	407	265,652
	私 費	34	20,263	2	640
	合 計	1,030	458,046	409	266,292
農 学 分 館	校 費	614	229,172	148	84,138
	私 費	79	33,069	163	64,262
	合 計	693	262,241	311	148,400
理 学 部 附 属 臨 海 実 験 所	校 費	7	3,215	0	0
	私 費	0	0	0	0
	合 計	7	3,215	0	0
合 計	校 費	6,569	3,870,191	1,353	977,545
	私 費	1,919	1,129,275	937	708,118
	合 計	8,488	4,999,466	2,290	1,685,663

附 属 図 書 館 の 概 況

この概況は毎年実施される大学図書館実態調査のうち主な項目をとりまとめたものである。表1は昭和62年～平成元年度の本学の概況、表2は平成元年度部局別のそれである。

表 1

区 分		昭和62年度	昭和63年度	平成元年度
蔵 書	和	1,400,198 冊	1,439,052 冊	1,475,956 冊
	洋	1,357,235	1,400,807	1,436,085
	計	2,757,433	2,839,859	2,912,041
所 蔵 雑 誌 数	和	23,146 種	23,228 種	23,414 種
	洋	29,526	29,853	30,064
	計	52,672	53,081	53,478
年 間 図 書 受 入 数	和	41,153 冊	40,020 冊	41,415 冊
	洋	54,765	42,401	36,682
	計	95,918	82,421	78,097
年 間 雑 誌 受 入 数	和	10,002 種	9,969 種	10,075 種
	洋	11,145	11,098	11,169
	計	21,147	21,067	21,244
奉仕対象 者 数	学 生	15,010 人	15,331 人	15,518 人
	教 官	2,497	2,519	2,308
一人当り 奉仕対象	蔵 書 数 (冊)	158	158	163
	年間図書受入数 (冊)	5	5	4
	図書館資料費 (千円)	57	45	45
図 書 館 職 員 数	総 数	145 人	146 人	144 人
	専 任	82	80	79
	臨 時	63	66	65
図書館職員1人当り奉仕対象者数		121	122	124
図 書 館 資 料 費 (千円)		1,004,754	807,961	797,503
大 学 総 経 費 (千円)		64,049,000	62,147,000	65,844,000

表

部 局		職員数 ()は 定員外 職員内 数	蔵 書 (平成2年3.31 現在)						平成 元 年 度		
			図 書 (冊数)			雑 誌 (種類数)			図 書 (冊数)		
			和	洋	計	和	洋	計	和 (うち購入)	洋 (うち購入)	計 (うち購入)
本 館 関 係	本 館	37(24)	573,439	302,791	876,230	11,210	11,937	23,147	11,865 (9,325)	5,118 (3,958)	16,983 (13,283)
	文 学	1(1)	180,819	106,087	286,906	923	738	1,661	8,105 (5,107)	3,466 (2,505)	11,571 (7,612)
	教 育	1(1)	43,685	28,910	72,595	797	338	1,135	1,350 (844)	1,280 (673)	2,630 (1,517)
	法 学	3(0)	82,311	106,910	189,221	871	534	1,405	1,631 (1,145)	2,974 (2,147)	4,605 (3,292)
	経 済	4(1)	146,492	140,513	287,005	1,373	908	2,281	2,914 (1,965)	3,450 (2,603)	6,364 (4,568)
	選 研	(2)	6,919	13,964	20,883	253	271	524	177 (55)	345 (138)	522 (193)
	科 研	1(1)	4,090	13,709	17,799	283	136	419	71 (28)	263 (83)	334 (111)
	流 体 研	(2)	11,449	16,294	27,743	85	255	340	271 (228)	391 (162)	662 (390)
	通 研	2(0)	6,491	16,200	22,691	134	265	399	270 (64)	612 (158)	882 (222)
	非 水 研	1(1)	5,725	19,102	24,827	96	224	320	229 (60)	601 (172)	830 (232)
	応 情 研	0(0)	501	1,330	1,831	3	28	31	1 (1)	16 (16)	17 (17)
	サイクロン	(2)	834	2,889	3,723	6	34	40	12 (12)	186 (26)	198 (38)
	大 計	(1)	1,971	1,599	3,570	29	43	72	30 (30)	16 (16)	46 (46)
	遺 生 研	2(0)	17,320	10,587	27,907	372	273	645	67 (58)	271 (55)	338 (113)
	計	52(36)	1,082,046	780,885	1,862,931	16,435	15,984	32,419	26,993 (18,922)	18,989 (12,712)	45,982 (31,634)
医 学 分 館		10(13)	132,947	200,057	333,004	1,727	5,009	6,736	3,899 (2,324)	5,966 (828)	9,865 (3,152)
北 青 葉 山 分		6(5)	58,410	228,188	286,598	2,014	6,002	8,016	1,176 (735)	5,113 (1,046)	6,289 (1,781)
工 学 分 館		4(6)	127,498	137,183	264,681	1,685	1,673	3,358	2,148 (1,492)	3,905 (1,586)	6,053 (3,078)
農 学 分 館		4(2)	58,581	41,537	100,118	1,248	830	2,078	7,019 (666)	1,564 (357)	8,583 (1,023)
計		24(26)	377,436	606,965	984,401	6,674	13,514	20,188	14,242 (5,217)	16,548 (3,817)	30,790 (9,034)
金 研		3(3)	16,474	48,235	64,709	305	566	871	180 (99)	1,145 (410)	1,325 (509)
総 計		79(65)	1,475,956	1,436,085	2,912,041	23,414	30,064	53,478	41,415 (24,238)	36,682 (16,939)	78,097 (41,177)

受 入 冊 数			平 成 元 年 経 費					施 設(平成2年5.1現在)				
雑 誌 (種類数)			図 書 館 資 料 費				運営費 (職員 給与除 く) (千円)	座席数 (席)	延面積 (㎡)	閲覧室 スペース (㎡)	書 庫 スペース (㎡)	収容可能 冊 数 (冊)
和 (うち購入)	洋 (うち購入)	計 (うち購入)	図 書 (千円)	雑 誌 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)						
1,990 (504)	956 (618)	2,946 (1,122)	98,828	41,064		139,892	163,006	1,101	18,215	4,180	6,847	1,405,861
639 (304)	532 (521)	1,171 (825)	53,368	9,474		62,842	4,252	1	68	2	10	4,975
490 (117)	247 (247)	737 (364)	15,275	4,574		19,849	5,270	20	268	89	90	11,950
638 (169)	401 (358)	1,039 (527)	31,244	7,279	11,103	49,626	4,024	33	699	65	444	59,667
753 (115)	457 (339)	1,210 (504)	36,882	18,921		55,803	7,458	18	282	45	125	27,472
123 (45)	127 (95)	250 (140)	3,139	7,628		10,767	3,492	16	246	37	144	25,972
256 (10)	112 (68)	368 (78)	1,637	8,104		9,741	2,139	20	574	58	375	36,556
251 (36)	206 (119)	457 (155)	3,770	7,503	19	11,292	4,026	8	212	27	163	30,111
310 (91)	243 (166)	553 (257)	2,389	12,692	28	15,109	2,188	10	335	59	247	31,777
58 (37)	132 (125)	190 (162)	4,248	13,083		17,331	2,865	28	331	63	252	39,389
2 (2)	29 (29)	31 (31)	234	683	99	1,016						
6 (6)	34 (34)	40 (40)	555	4,446		5,001	5,803	4	98	12	35	5,778
24 (24)	37 (36)	61 (60)	459	1,382		1,841	3,395		59		59	3,889
242 (34)	235 (73)	477 (107)	1,202	4,005	139	5,346	587	10	206	18	160	32,638
5,782 (1,494)	3,748 (2,878)	9,530 (4,372)	253,230	140,838	11,388	405,456	208,505	1,269	21,593	4,655	8,951	1,716,035
1,072 (465)	2,600 (2,291)	3,672 (2,756)	32,944	90,072		123,016	50,713	327	4,025	256	2,190	418,222
1,232 (787)	2,852 (1,937)	4,084 (2,724)	19,451	77,035		96,486	31,900	248	3,356	1,140	1,310	296,194
1,032 (271)	1,077 (834)	2,109 (1,105)	39,182	62,045	4,105	105,332	35,562	210	2,712	1,194		92,638
677 (107)	609 (272)	1,286 (379)	11,407	22,300	223	33,930	10,627	116	1,279	326	418	82,166
4,013 (1,630)	7,138 (5,334)	11,151 (6,964)	102,984	251,452	4,328	358,764	128,802	901	11,372	2,916	3,918	889,220
280 (63)	283 (167)	563 (230)	8,620	23,997	666	33,283	6,388	20	693	28	584	64,667
10,075 (3,187)	11,169 (8,379)	21,244 (11,566)	364,834	416,287	16,382	797,503	343,695	2,190	33,658	7,599	13,453	2,669,922

参考図書購入報告（平成元年度）

参考図書購入経費（文学部・教育学部・法学部・経済学部の四学部間共通経費、本学共通経費、文部省事項指定参考図書購入費）によって下記の資料を購入しました（※印は継続購入のものです）。

なお、これらの資料は本館レファレンス・コーナーに備え付けておりますので、ご利用下さい。

1. 和 書

A. 所蔵目録

- ※ 国立国会図書館蔵書目録 昭和44-51年 第3編（1）、第5編、著者名索引、書名索引
- ※ 新収洋書総合目録 1984-87年 pt.1-12
- ※ 現行医学雑誌所在目録 1989年
- 国立国会図書館所蔵 博士論文目録 昭和59-63年 第1、2分冊
- 外国逐次刊行物目録 1988年現在
- 欧州共同体刊行資料目録
- 日本関係翻訳図書目録：世界の見た日本
- 学術雑誌総合目録 欧文編 1988年版 1-5分冊
- JICST 資料所蔵目録 1989年
- 古典籍総合目録 1-3巻
- 中国雑誌所蔵目録 1949-65年

B. 出版目録

- ※ 日本書籍総目録 1989年
- ※ 出版年鑑 1989年
- ※ 雑誌新聞総かたろぐ 1989年
- ※ ブック・ページ 1989年
- 日本科学技術関係逐次刊行物総覧 1988年
- 中国書籍総目録 全国総書目 19（1,2）、20（1）、34-45巻
- 内部発行編 1949-86（上・下）

C. 索引・妙録・書評・書誌

- ※ 日本法令索引 現行法令編 昭和63年、平成元年
- ※ 書評年報 人文・社会・自然編、文学・芸術・児童編 1988年
- ※ 読売ニュース総覧 1988,1989年
- 世界文学総覧シリーズ 1（上・下）、2（上・下）、5（上・中・下）
- 日本研究分献解題
- 全集・叢書細目総覧 古典編・続
- 日本女性史研究文献目録
- 邪馬台国研究事典 4 文献目録2（人名編）

D. 地図・地名・人物・機関名鑑類

- ※ 日本分県地図地名総覧 平成2年版
- ※ 東京都地図地名総覧 平成2年版
- ※ 角川日本地名大事典 15（新潟県）、18（福井県）、33（岡山県）
- ※ 日本歴史地名大系 6（山形県）、21（岐阜県）
- みやぎ地図百科 1989年版
- ※ ダイヤモンドダスト会社職員録 全上場会社版 1990年（上・下）
- ※ 非上場会社版 1989年（上・下）
- ※ 職員録 平成2年版
- ※ 全国大学職員録 国立大学編、私立大学編 平成元年

- ※ 全国短大・高専職員録 平成元年
- 現代日本人名録 1990年（上・中・下）
- 近代政治関係者年譜総覧 戦前編 1-6
- 日本著者名総目録 87/88 4巻
- 江戸幕府旗本人名事典 1-4
- 市民・社会運動人名事典
- ※ 会社年鑑 上場会社版 1990年
- ※ 会社四季報 1989年（3, 4）, 1990年（1, 2）
- ※ 会社総鑑 未上場会社 1989年（上・下）
- ※ 全国学校総覧 1990年版
- ※ 全国試験研究機関名鑑 1989/90年
- ※ 日本の出版社 1990年
- ※ 外国会社年鑑 1990年
- ※ 海外進出企業総覧 1990年
- 全国図書館案内 増補新版（上・下）
- NGOダイレクトリー

E. 特定主題事典

- ※ 大六法（岩波） 平成2年版
- ※ 六法全書（有斐閣） 平成2年版
- ※ 藩史大事典 2, 3, 5, 6巻
- ※ 国史大辞典 10巻
- ※ 新編国歌大観 7（1, 2）, 8（1, 2）
- ※ 医科学大事典 補巻2, 3 最新の医療情報
補巻4 最新の医科学用語
- ※ 理科年表 平成2年版
- ※ 言語学大辞典 1, 2巻
- ※ 世界大博物図鑑 2, 4, 5巻
- 旧約新約聖書大事典
- オックスフォード西洋美術事典
- 岩手民話伝説事典
- 岩手百科事典
- 軍事用語辞典
- 英和和英最新軍事用語辞典
- 仏教文化事典
- 仏教名言辞典
- 図書館用語集
- 古文書古記録難訓用例大辞典
- 最新文学賞事典
- 枕詞辞典
- ユネスコ情報管理用語集
- 現代言語学辞典
- 文化賞事典
- 和英対照日本美術用語辞典
- コーラー会計学辞典
- ラルース世界音楽辞典（上・下）
- 太平洋諸島百科事典
- 医・歯・薬・農学図書館員のための欧文「略語」集

日本のシダ植物図鑑

F. 語学事典

- ※ 現代用語の基礎知識 1990年
- 時代別国語大辞典 室町時代編 2
- ギリシャ語辞典
- 小学館伊和中辞典
- コスモス朝和辞典

G. 年鑑

- ※ 朝日年鑑 1990年
- ※ ブリタニカ国際年鑑 1989年
- ※ 中国年鑑 1989年
- ※ 時事年鑑 1990年
- ※ 河北年鑑 1990年
- ※ 世界大百科年鑑 1989年
- ※ 日本教育年鑑 1989年
- ※ 韓国年鑑 1989年
- ※ 日本都市年鑑 平成元年
- ※ 世界年鑑 1990年
- ※ 図書館年鑑 1989年
- ※ 読売年鑑 1990年
- ※ 国語年鑑 1989年
- ※ 国文学年鑑 昭和62年

H. その他

- ※ 国会便覧 80,81版
- ※ 国勢総覧 1990年
- ※ 公共試験研究機関課題案内 科学技術テーマ編 1989年
- ※ 文部省科学研究費補助金採択課題一覧 平成元年度
- ※ 大正ニュース事典 7巻、総索引
- ※ 近代文学研究叢書 62巻
- ※ 年表日本歴史 5
- イギリス政府・議会文書の調べ方
- 古文書字叢
- 西洋の紋章とデザイン
- 標準世界史年表
- 新世界史主題年表
- 日本史年表
- 外国新聞にみる日本：国際ニュース事典 第1巻（本編・原文編）
- 情報処理ハンドブック
- ヒューマンファクター：新人間工学ハンドブック
- 原子力ハンドブック
- 現代労働衛生ハンドブック
- メンタルヘルス・ハンドブック
- 知の集積と進化：国立国会図書館40周年シンポジウムの記録
- サーチャー入門
- 全国古本屋地図
- 新・図書館学ハンドブック
- フランス図書館・情報ハンドブック
- 情報と文献の探索：参考図書の問題
- 目録法—その見方考え方

2. 洋 書

A. 所藏目錄

Chinese periodicals in the Library of Congress : a bibliography.

B. 出版目錄

- ※ American books publishing record. Cumulative. 1988
- ※ American reference books. Annual. vol. 19 (1988)
- ※ Books in print. 1989/90 8 vols.
 - Supplement. 1988/89 2 vols.
 - Subject guide. 1989/90 4 vols.
- ※ Cumulative book index. 1988 2 vols.
- ※ Guide to reprints. 1989
- ※ The publisher's trade list annual. 1989
- ※ Ulrich's international periodicals directory. 1989/90 3 vols.
- ※ Whitaker's books in print. 1989 4 vols.
- ※ Deutsches Bucherverzeichnis. 1981-85 Lfg. 27-77
- ※ Verzeichnis lieferbarer Buecher.
 - Autoren Titel Stichwoerter. 1989/90 6 vols.
 - Schlagwort-Verzeichnis. 1989/90
 - ISBN-Register. 1989/90
 - Ergaenzungsband Fruehjahr. 1988/89
 - Ergaenzungsband Fruehjahr & ISBN-Register. 1988/89, 1989/90
- ※ Les livres disponibles. 1990 6 vols.
- ※ Библиография советской библиографии. 1987.
- ※ Ежегодник книги СССР. 1986.
- ※ Летопись периодических и продолжающихся изданий. 1981-85.
- Short-title catalogue of books printed in England, Scotland, Ireland, Wales, and British, America, and of English books printed in other countries, 1641-1700. vol. 3
- Internationale Bibliographie der Festschriften von den Anfaengen bis 1979. Bd.1

C. 索引・抄録・書評・書誌

- ※ Comprehensive dissertation index. 1988 5 vols.
- ※ Index Bio-bibliographicus Notorum Hominum (IBN). pars. C, sect. Generalis. vol. 45
- ※ Internationale Bibliographie der Rezensionen Wissenschaftlicher Literatur. vol. 18 (1-2)
- ※ Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur. vol. 24 (1) 6 vols.
- The Brits index. 3 vols.
- Scientific books in Italy : subject guide.
- Walford's guide to reference material. vol.1
- Shinto-bibliography in western languages.

D. 地図・地名・人物・機関名鑑類

- Bartholomew world travel maps. 1989
- ※ Contemporary authors. vol.126
- ※ The international who's who. 1989/90
- ※ Who's who. 1989
- ※ Who's who in France. 1989/90
- ※ Who was who in America. vol. 9(1985-89), index to 1607-1989
- ※ Wer ist wer? : Das Deutsch Who's who. 1989/90
- ※ Dizionario biografico degli Italiani. vol.28, 33-36
- Who's who in the socialist countries of Europe. 3 vols.

A biographical dictionary of the Soviet Union 1917-1988.

A dictionary of surnames.

※ The national faculty directory. 1990 3 vols.

※ The world of learning. 1990

※ Willings press guide. 1989

※ Study abroad. vol. 26 (1989/91)

Europe's 15000 largest companies.

E. 百科事典

※ Brockhaus Enzyklopaedie. Bd. 8-10

※ The encyclopaedia of Islam. New ed. vol. 6 (111-112), Index to vol. 1-5, suppl. to 1-6

※ Ежегодник большой советской энциклопедии. Вып. 33. 1989.

The encyclopedia americana. 30 vols.

F. 特定主題事典

※ McGraw-Hill yearbook of science & technology. 1990

Reference sources for the social sciences and humanities. vol. 3-7

Brassey's multilingual military dictionary.

Der Grosse Ploetz : Auszug aus der Geschichte.

Onomasticon philosophicum (羅独—独羅學術語彙辞典)

International encyclopedia of communications. 4 vols.

The ALA glossary of library and information science.

G. 語学辞典

※ Althochdeutsches Woerterbuch. Bd. 4 (6, 7)

※ Middle English dictionary. pt. S (8, 9, 11)

※ Thesaurus linguae Latinae. vol.10 (1/3, 1/4), 10 (2/5)

Collins Deutsch-English, English-Deutsch.

Etymologisches Woerterbuch des Deutschen. 3 vols.

The Longman register of new words.

Dictionnaire du français, langue etrangere. niv.1, 2

Czech-English dictionary.

Svensk ordbok.

A concise dictionary of middle Egyptian.

An Egyptian hieroglyphic dictionary.

New acronyms, initialisms & abbreviations.

H. 年鑑

※ The Europa world year book. 1989 2 vols.

※ The statesman's year-book. 1989/90

※ Whitaker's almanack. 1990

※ The world almanac and book of facts. 1989, 1990

I. その他

※ Medical subject headings (MeSH). Annotated alphabetic list. 1990

Permuted. 1990

Tree structures. 1990

Milestones in science and technology.

How to write & publish a scientific paper.

Literature searching in science, technology, and agriculture.

An introduction to subject indexing.

Interlibrary loan policies directory. 2nd ed.

Periodical title abbreviations series. 6th ed. 3 vols.

First stop : the master index to subject encyclopedias.

平成2年度東北大学附属図書館職員総合研修会

平成2年度の研修会は、11月6日（火）午後1時半より本館大視聴覚室に於て東京慈恵会医科大学医学情報センター山崎茂明氏と数年前まで本館に勤務されていた学術情報センターの松井好次氏を講師に迎えて開催された。

「これからの図書館サービスの在り方—CD-ROMを中心として—」では、山崎氏は1987年から今年までの4年間に訪れたアメリカ、ヨーロッパのスライドをみながらCD-ROMがそれらの国および日本でどのようにして受け入れられ、重要視されるようになったかをわかりやすく説明され、最後に同氏は図書館は病院等のように特定の問題解決のために集まる場所で、そこで支える精神はボランティア＝non-profitであると結論付けています。

松井好次氏の「目録所在情報サービスの現状」では、学術情報センターの沿革、組織機構、現状等苦労話をまじえながら楽し気に話された。その中で現在センターの参加機関は国立大学88、公立

大学4、私立大学44、共同利用機関5、その他放送大学1の計142機関にのぼっており、今年度中には更に国立大学のほとんど全てが参加の予定。一方データの面から見ると書誌登録件数は現在毎月2万5千件以上あり、累積で138万件、所蔵については11月5日現在400万件を越え、最近の急激な伸び率からすれば今年度の終りには500万件に達するのではないかということでした。以上のような大部の情報量をわずかな職員で解決し捌いていくのはまさに神技に等しい大変な事であるということを改めて感じました。また、現在の学術情報センターの目録は所在情報サービスにおいては全国共同分担で目録がとられ、その結果として総合目録が形成され、このことにより学術情報の流通が促進され、学術情報資源の共有が可能となると結論づけています。

この研修会には本学職員の外、在仙国私立大学の図書館から約70名が参加し、盛会の中に閉会した。

東北大学附属図書館本館利用規則・同細則の

一部改正について

本館と大学共同利用機関等との図書館資料の相互利用及び他大学図書館との現物貸借に関する取扱いを定めるため、本館利用規則及び同細則の一

部を改正した。

（平成2年7月20日施行）

人 事 異 動

発令 年月日	旧 官 職	氏 名	新 官 職	備 考
2. 9. 8		前川原 公 事	事務補佐員（情報サービス課 閲覧第一掛）	採 用
10. 1	事務補佐員（医学分館整理掛）	高 橋 健 一		退 職
"	"（" 運用掛）	佐 藤 聡		"
"		荒 井 秋 子	事務補佐員（医学分館運用掛）	採 用
10. 8		小 野 千恵子	"（総務課）	"
11.15	事務補佐員（医学分館総務掛）	工 藤 洋 子		退 職
11.24	"（情報サービス課閲覧 第一掛）	前川原 公 事		"
12. 1		渡 部 信 子	事務補佐員（医学分館総務掛）	採 用
12. 3		高 橋 彌 平	"（情報サービス課 閲覧第一掛）	"
3. 1. 1	事務補佐員（医学分館運用掛）	香 川 富士子		退 職
2.28	"（情報管理課洋書目録 情報掛）	屋 代 紀 子		"
3. 1		高 橋 八千代	事務補佐員（情報サービス課 閲覧第一掛）	採 用
3.15	事務補佐員（情報サービス課閲覧 第一掛）	高 橋 彌 平		退 職
3.20	"（"）	大 槻 賢 信		"

【 編 集 後 記 】

平成2年度は、当館にとって新たな出発の年と云えます。それは、長年の念願であった増築が認められ5月に2号館が開館したからです。

コンピュータの普及、データ通信機器の発達、ニューメディアの開発など、図書館をとりまく環境は大きく変わりつつあります。

2号館ならびに旧館を含む図書館は、このような状況に充分対応出来る器と考えられます。

この器にふさわしい図書館の機能はこれから鋭意検討していかなければなりません。ご意見とご協力をお願いいたします。

東北大学附属図書館報「木遣子」 第15巻 第3-4号（通巻第58号） 発行日 平成3年3月29日

編集委員長 菅野博之 編集委員 佐藤義則、佐々木勝義、村岡 徹、湯目昌史

発行人 矢野光雄 発行所 東北大学附属図書館 仙台市青葉区川内 電話 代表 222-1800(2403)